

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902611		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホームやすらぎⅡ(ユニットやすらぎⅡ)		
所在地	旭川市東旭川町下兵村254番地の3		
自己評価作成日	平成28年11月8日	評価結果市町村受理日	平成28年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902611-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者個々の能力に応じた介助を心がけ、できるお手伝いやレクリエーション活動を通じて、生活に張り合いが持てるように取り組んでいます。
・職員個々に年間の目標と行動計画を立てて課題に取り組み、研修参加や勉強会を主体的に行ない自己研鑽に努めています。
・ユニット毎に3ヶ月ごとに小目標をたてて、毎月のミーティングで課題を話し合ったり、ケアの改善や不適切なケアへの気づきを増やしていくよう努めています。
・心身の状態変化に早期に対応し、関係機関と連携を取り受診援助しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

動物園通りから住宅街に少し入った閑静な場所に母体医療法人が運営する開設10年を迎える木造平屋造り2ユニット(定員:18名)のグループホームです。
基本理念を振り返りながら職員間の話し合いの場を設けて、3ヶ月毎に具体的な目標を掲げ達成度を評価しながら統一したケアサービスを目指し、利用者一人ひとりのアセスメントに重点を置き、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について情報の共有を行い介護計画に反映している。
また、法人独自の家族アンケートを実施して、意見や苦情等を言い表す機会を設けて、そこでの意見を運営に反映できるように取り組んでいる。
地域交流では、よさこい演舞やマジックショー等のボランティアを受け入れたり、町内会長宅でトマト狩りをさせて戴くなど地元の人々との交流・連携に努めている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいの			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいの				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)		1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが			○	3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)		1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)		1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1 ほぼ全ての利用者が				
		○	2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や基本方針など意識しつつ、スタッフ一人一人考え行動することができた。意識付けすることで利用者のアセスメントを積極的に行い、話し合いの場も増えた。	基本理念を振り返りながら職員間の話し合いの場を設けて、3ヶ月毎に具体的な目標を掲げ達成度を評価しながら統一したケアサービスを目指し、利用者一人ひとりのアセスメントに重点を置いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の日常の交流はないが、町内会長宅へトマト狩りをさせて頂いたり、スーパーで日常で使用する物の購入している。また、グループホーム新聞など発行し町内に配布している。	よさこい演舞等のボランティアを受け入れたり、町内会長宅でトマト狩りをさせて戴くなど地元の人々との交流・連携に努めている。また、「グループホーム新聞」を町内会へ回覧したり、公共施設への掲示など広報に取り組んでいる。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今の所施設からの発信の機会は少ないが、担当者会議等で家族に普段の様子を伝えている。また、施設見学に来た方や入居の相談時で説明している。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容を議事録にしてミーティングで報告をしている。今後は、スタッフとも話し合いを増やしたり、利用者や計担以外のスタッフも積極的に参加していくようにしたい。	定期的に運営推進会議を開催し、苦情相談対応や地域交流会、災害対策等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	スタッフが直接関わることは少ないが、事故報告や運営推進会議報告など市町村と連絡をもっている。実地指導監査を通じて施設サービスの取り組みを理解いただいている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じた情報交換や相談、研修会参加等で協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会など行って取組みは行っているが、スピーチロック、言葉使いを気をつけたい。玄関の施錠も安易な施錠は行っていない。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を高齢者虐待防止や身体拘束廃止等の具体的な事例を挙げて研修会を実施して正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会など行い、虐待の目を摘むようにしている。不適切なケアをスタッフ間で話し合えるような関係性を築けるようにしたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度や成年後見制度について学ぶ機会はあるが、支援をするまでには至っていない。今後活用が増えると思うので理解に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約業務は管理者が行なっている。利用料改定などの変更があった時には、スタッフも家族に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談があった時には、ミーティングで話し合い改善に努めている。また、利用者も運営推進会議に参加し意見を表せる機会を設けている。利用者満足度アンケートも実施してケアや業務の改善に活かしている。	法人独自の家族アンケートを実施して、意見や苦情等を言い表す機会を設けて、そこでの意見等を運営に反映できるように取り組んでいる。また、市町村等の相談窓口の啓発ポスター等を掲示しており、意見箱の設置もしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談やミーティングで業務内容について意見交換する機会を持っている。また、必要物品を法人に申請し購入する機会もある。	個人面談やショートカンファレンスの実施等で職員の意見やアイデアを聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望の配慮、処遇改善加算、公休の増加などを行い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加の希望がある時には、勤務調整を行なっている。今後は新人スタッフ教育について、しっかりとした研修体制を作っていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	法人内の同業者との委員会での活動を通じ交流している。また、外部の研修でも同業他社と交流する機会を持っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にユニットリーダーが本人と面会して不安なことや要望を聞いている。フェイスシートの情報から病状や身体の状態、生い立ちなどを把握し、日頃のコミュニケーションやケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前見学時、契約時、荷物搬入時に不安なことなど聞いている。また前もって相談の記録や情報から把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関から事前に情報をいただき、面談をしていく中で、必要なサービスについて確認し、施設でできるサービスを説明した上で入所を決めていただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔話を聞いたり、布巾たたみや食器洗い時にねぎらいの言葉かけをしっている。時には冗談を言い合ったりしているが全ての利用者ではない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月スタッフから家族へ手紙で近況を伝えたり、面会時にも状況やスタッフにかけてくれた言葉を伝えたりしている。本人が希望する物や必要な物の購入など、家族と相談しながら対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや面会時居室で過ごしてもらったりしている。子供、孫、ひ孫、娘の友達なども面会にみえている。しかし本人にとっての馴染みの場所が薄れてきたり、相手の高齢化によって減ってきている人もいる。	家族等の来訪支援や七夕での子供たちとの交流、地域の敬老会参加等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年の離れている利用者同士新聞を読んでもらったり、将棋、マージャン、など一緒に行ったり、ソファへ移動し、スタッフが間に入って介入して関わったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にアルバムを渡したり、葬儀に参列し家族と想いを共有するよう心がけた。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を汲み取りながら援助を心がけ、困難な場合でもスタッフ間でよい方法を話し合い寄り添う支援や助言をしている。意向を伝えることが難しい方も、わかりやすい選択肢を示しながら把握に努めている。	一人ひとりのアセスメントに重点を置いて、ミニカンファレンス等で職員間で話し合い、情報を共有して本人本位の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を記録におとし情報共有しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態や仕草等も把握しアセスメントとして記録、情報共有している。また、持てる力量の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングだけでなく、ショートカンファレンスやユニットミーティングを通じて、ケアのあり方について全員で話し合う体制ができてきた。	基本理念を振り返りながら職員間の話し合いの場を設けて、3ヶ月毎に具体的な目標を掲げ達成度を評価しながら統一したケアサービスを目指し、利用者一人ひとりのアセスメントに重点を置き、ミニカンファレンスで情報の共有を行い介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出されたアセスメントの追及をし、ケアの気付きを記録できるようになってきた。それをケアプラン見直しにつなげ、統一した関わりのケアが実践できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理容、訪問販売、訪問マッサージを利用したり、行事の時にはボランティアの方に来てもらったりしている。又、予定外の外食、外泊なども対応し柔軟な対応や、サービスの多機能化の取組むようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出・外食支援で地域のコンビニやお店を利用し、行事等では、ボランティアを活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ過去に通院歴のある病院にかかるようにしている。また、以前通院していた所から別の病院への変更も家族の了承を得ている。	受診は、本人・家族の納得したかかりつけ医となっている。また、母体医療法人との連携や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診対応については、看護師(施設長)と相談しながら行っている。24時間看護師(施設長)と連絡、相談できる体制になっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度入退院の該当者は居ないが、入院時の面会、退院前の状態変化の確認をして事前に退院時に迎え入れる準備をしている。病院関係者とも情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の意向の確認をしているが、決められない方もいるので、その時々状況に合わせて、本人・家族に今後の方向性や看取り等の意向の確認を行うようにしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員の救急講習を受けている。急変した利用者の経験を元に、今後の対応をスタッフ同士で話し合い、マニュアルを整備し急変時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時の避難誘導を想定したレポートを書いたり、年2回緊急連絡網の訓練をしている。消防署員の立会いで避難通報訓練を行いアドバイスを受けている。町内会と災害発生時の避難に関する協定を結んでいる。	消防署の協力を得て年2回の火災避難訓練を実施していると共に自衛防災訓練も実施している。また、救急救命講習も受講している。町内会とは、災害発生時の避難に関する協定を結んでいる。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせて言葉がけをすると共に、周囲に聞こえないよう居室や相談室を利用し、プライバシーへの配慮に努めている。	ショートカンファレンスやユニット毎のミーティングで一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホールや外出時等の会話の中で、利用者の希望を確認している。また、仕草や行動から利用者のしたいことを察知したり、2択にして選びやすくするなど、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日課など無理に勧めたりせず、できない理由を確認しながら利用者の気持ちを尊重した支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容サービスを利用したり、希望者には化粧品や服の購入も行なっている。また、季節にあった衣類の選択ができない方へは、好みを聞きながら助言している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食べやすい食事形態や食器・盛り付けの工夫を行なっている。また、味噌汁やおかずの味見や、能力に応じて下膳や食器洗浄等をしていただいている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付け、食器洗い等をしている。また、摂取カロリーや水分摂取量を把握して支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の助言や体重の増減を基に、栄養バランスに配慮した食事量の提供に努めている。また、個々の好みに合わせた飲み物を提供する事で、必要な飲水量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けすると共に、歯科医から指導された口腔ケアが実施できるよう助言、見守りを行なっている。また、義歯洗浄剤をカレンダーに貼り付けるなど、自らケアできるよう工夫している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートで排尿確認し、間隔があいていたらトイレの声かけを行い、トイレ誘導を行う。また、パット使用者から布パンツのみ使用の変更も行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声かけや誘導等でトイレでの排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	やむをえず下剤使用する方はいるが、乳製品を取って頂いたり、腸の体操を行い自力排便を促すようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、それ以外の日でも入浴して頂いている。時間の希望が重なる時は、順番を考えて公平にしている。また、入浴拒否のある利用者には、スタッフを固定したり声かけの仕方やタイミングなど工夫しながら記録で情報共有し、入っていただけるよう支援している。	入浴日は、決まっているが声かけや時間等に配慮しながら支援をしている。また、拒否の強い本人にも柔軟な対応支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも臥床したい人は夜間に支障が無いぐらいにし臥床して頂いている。また、スタッフ都合ではなく一人一人の生活習慣にあった生活をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐ為服薬マニュアルの整理や申し送りにて症状の変化など引き継がれているが、薬の副作用など、もっと把握していくようにしたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に合わせたレクを企画したり、好きな歌番組を観ていただいたり、飲食物のこだわりなどフォローし、一人一人の楽しみを見出すよう心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方の協力もあり、個々のニーズに合わせて外泊・外出、買い物など出かけられている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や買い物、外気浴等で戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、外泊やソフトクリーム等の外食、地域のお祭りや敬老会参加等で普段は行けないような場所でも、出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している利用者もあり、施設内の自販機で好きな時にジュースを購入されている。買い物に行った時には自分で選んで購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話希望ある時は取りつぎをし、落ち着いて会話出来る様場所と周りへの配慮をしている。年賀状は毎年出しており、家族から届いた手紙は自室に飾られている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンの風が直接当たらないように、仕切りを作って対応し、陽射しは随時カーテンで調整している。お風呂の温度は毎回温度計で測定し確認をとっている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には、行事参加の写真や季節毎の飾りつけが行われ、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がTVを見やすい様、ソファ席の座席変更を行なっている。耳が遠い利用者にはスタッフ介入して他者との交流も行っている。暖かい日はテラスを活用し外で日光浴をしていたらいい。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用されていた仏壇やマリア像において、宗教の信仰を続けられている。TV台は本人の高さに合うものに変更し使いやすいよう配慮している。	居室には、使い慣れた家具や仏壇、寝具が持ち込まれ、安全に配慮しながら本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目の見えづらい方には、目印で黒テープ使用し見えやすいよう配慮している。杖も食事席で邪魔にならない様に杖たてを作成。足が浮腫む方には足台で挙上していただいている。椅子の足に靴下をつけて自力で椅子をずらせる様にしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902611		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホームやすらぎⅡ(ユニットこもれびⅡ)		
所在地	旭川市東旭川町下兵村254番地の3		
自己評価作成日	平成28年11月9日	評価結果市町村受理日	平成28年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902611-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者個々の能力に応じた介助を心がけ、できるお手伝いやレクリエーション活動を通じて、生活に張り合いが持てるように取り組んでいます。
・職員個々に年間の目標と行動計画を立てて課題に取り組み、研修参加や勉強会を主体的に行ない自己研鑽に努めています。
・ユニット毎に3ヶ月ごとに小目標をたて、毎月のミーティングで課題を話し合ったり、ケアの改善や不適切なケアへの気づきを増やしていくよう努めています。
・心身の状態変化に早期に対応し、関係機関と連携を取り受診援助しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実践を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と基本方針についてレポートを提出し意識付けを行った。ショートカンファレンスやユニットミーティングで話し合いの場を多く持ち、実践に繋げられる様取組む体制はできた。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅地から少し離れている為、日常的な交流は少ないが、その中でトマト狩りに招いて頂いたり、七夕には地域の子供達が来ている。又、地域の敬老会の参加やグループホーム新聞の配布をしている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、地域に向けての発信は出来ていないが、運営推進会議で取り組みを伝えたり、個々での発信は出来ている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや実情・課題について報告し意見をもらっており議事録には残しているが、現場まで反映しきれていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の報告や実地指導監査でケアサービスについて伝えている。運営推進会議に市職員が出席し、取組みについて報告し意見交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員が中心になって拘束の弊害について学習を行っている。身体拘束はしていないが、スピーチロックが見られる事がある為、今後気を付けて行きたい。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	振り返りシートで個々で見直しをしているのに加え、第3者からみてどうかという他者評価も行っている。今後も不適切ケアに気付いていけるよう努めて行きたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の概要については知識として理解、制度の動向については研修に行ったスタッフから話を聞いて理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が主に対応。不安、疑問点を都度確認しながら説明をしている。契約の流れについては新人研修の中で指導している。利用料など改定時にはスタッフも家族に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度アンケート実施、苦情相談があった時はミーティングで話し合い改善に努めている。家族会を設けているが参加者は少ない。運営推進会議への利用者参加を進めて意見をいただくようにしているところである。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談をはじめ、管理者に随時相談、意見や要望を出すことは出来ている。必要なものは法人に申請、購入してもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算支給で給与面での待遇改善、公休増加、可能な限りでの勤務、休み希望への対応や柔軟な勤務変更で働き甲斐ある職場環境の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修については法人からも研修参加を援助、勤務調整など研修参加しやすくなるよう後押ししている。事業所内でもスタッフ主催の勉強会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	役職者会議や法人の親睦会で事業所内での交流や実践者研修など外部の同業者との交流の中で情報交換している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェースシートや関係者からの情報収集で概要を把握、本人とも面会し不安なことや要望を確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要なもの・心配事・要望など伺っている。家族と関わった管理者・職員は情報を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談をしていく中でニーズや意向を把握するよう努めている。入居でのメリット・デメリットについての説明をしながら、その方に合ったサービスについて共に考えていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの知識・経験などからアドバイスをもらっている。意識付けが足りなく職員主体となっている所もある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係作りのために家族への手紙を毎月送っている。また、やり取りの情報を共有している。面会時・サービス担当者会議の際には、近況情報を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	まだ把握できていない事もあるが、家族の協力を得て遠い親戚や馴染みの人が来所したりしている。面会時には、お茶や椅子を出しゆっくり過ごして頂ける様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士で談話を楽しまれ、横の繋がりが良い雰囲気である。疎通が難しい方は職員が介入しクッション役になり話を振っている事もある。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の私物整理などに対応している。契約終了後も面会に行く職員もいるが、行けていない職員もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話の中から、希望意向を聞くようにしている。本人本位には至っていない・やり切れていない部分もあるので、今後も意向の把握に努めたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの活用、御家族からの情報を頂いたり、普段の会話の中から把握に努めている。今後も行動の背景の理解に役立てて行きたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わりの中での気づきを記録しアセスメント、ショートカンファレンスを行なっている。カンファレンス内容も記録にのせており、各スタッフが把握出来る様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎の目標に掲げ、日頃の気づきをアセスメント、モニタリングをチームで行なっていく流れが出来てきている。しかし家族の意見を聞く機会が少ないため、今後は家族の意見も聞いていきたい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメント、ショートカンファレンスを行う中でケアの方向性を決めている。決めた方法での関わりもさらに記録して評価に繋げ、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問美容室、ボランティアの楽器演奏、希望の化粧品メーカーでの買い物をしている。その時々にもニーズに合わせてるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	牛乳、ヤクルト、パンの訪問販売の活用、福祉用品の訪問販売を利用して安全で豊かな暮らしを送ってもらうよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に応じて家族と相談しながら適切な専門医に受診できるようにしている。また、受診する際の報告、受診後の経過の報告を家族にすることでかかりつけ医や家族との関係を築きやすくしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中ですらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員から看護師へ、いつでも相談、報告できる体制が出来ている。報告内容から適切な処置や主治医への連絡、受診を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は情報提供をしている。面会時に入院先の職員から食事等、状態確認したり、退院に向けての話し合いをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の説明と意向の確認をしている。体調の変化があれば主治医と相談しながら家族へも状況説明し、意向を確認の上入院の手配など行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員にきてもらい一般救急講習を受けた。他にミーティングで急変時の対応について話し合ったり、研修参加やスタッフ主体の勉強会をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員立会いで避難通報訓練を行いアドバイスをいただいている。また、自衛消防訓練大会にも参加している。町内会と災害発生時の避難に関する協定を結んでいる。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳に配慮した言葉かけに注意しているが、できていない場面もあるので、ショートカンファレンスやユニットミーティングの中で話し合い改善に努めたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の思いを表出出来る関係作り、コミュニケーションや表情から思いを読み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	業務優先になっている所があるので、可能な限り希望に添える様に業務の見直し工夫、改善していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用しカラー・パーマを楽しまれている。外出の際には、おしゃれが出来るアドバイスや季節に合わせた衣服の調整をしている。起床時、入浴後クリームを使用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせ食器や盛り付けの工夫をし、準備・片づけを一緒にしている。今後もその方の力を活かした支援に努めていきたい。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせ、補助食品を使用したり、献立は決まっているが、ミキサーにするなど個々に合わせた形体や量にしている。飲み物は、好みの飲み物をチェックし希望の時間に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と連携を取り、ケアブラシの工夫や改善をして、個人に力に合わせた準備・助言・補助の支援をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24hシートを活用し排泄パターンの把握に努め、個人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導している。日中は極力布パンツ使用を心がけている。オムツ使用の方でも希望時にトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトなど、その方にあわせた時間に提供したり、運動を取り入れ便秘予防に努めている。排便確認がしづらい方は、お腹の張りなど腹部の状態や体調を確認している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴日は決まっているが、状況に応じて別日も対応している。午後からの入浴希望の対応や好みの温度への調整をし、ゆったり入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も疲れがある時、眠たい時など、個々の状態に合わせて自室で臥床していただいている。照明や温度調整に注意しており、良眠出来る様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が変わった時には情報共有し、状態変化に注意している。処方箋をファイルしてすぐに確認出来る様にしている。服薬についてのマニュアル整備もして、誤薬事故防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テラスで外気浴や近所の散歩に出掛けたり、収穫時期には畑に行き野菜をとるなど季節を感じていただきながら、気分転換になるように心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクリエーションや個別の外出支援で夏にはソフトクリームを食べに出掛けるなど、要望に沿えるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的に所持している利用者さんは僅かだが、外出や受診時に買い物に行き、お金を使って頂ける機会を増やして行くようにしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフと一緒に年賀状を作ったり、希望時には電話を取り繋いでいる。また家族の協力を得て面会に来られない家族にも電話できるよう配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度や温度、照明や音量にも気を配り、標示物を設け混乱しないように工夫している。季節感が少ないので増やしていけるよう取組んでいきたい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の窓の下でソファで独り外を眺めたり、気の合う利用者さん同士でおしゃべりを楽しんでいる。また、面会後の見送りに使われている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人のニーズが減ってきているが、花を育てたり本人の想いを取り入れつつ混乱しないよう配慮している。安全面も考慮しケガしないよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事席の高さを調整したり、踏み台を使いポジショニングを工夫して食事をとりやすくしている。居室やトイレの場所が分かるよ、う矢印や張り紙の目印を設けている。また手すりを使用し歩行できる利用者さんもいる。		

目標達成計画

事業所名 グループホームやすらぎⅡ

作成日：平成 28年 11月 30日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	3 29	施設からの発信・アピールが少なく、地域とのつながりが薄れている。	地域の人たちと顔なじみの関係を作る。	1.地域交流会を充実させる。 ①町内会や近隣に案内パンフレット配布～利用者と一緒にスーパーや公民館などにも配布 ②より多くの世代の方に来ていただけるよう、バザーや催し物内容を検討する。 2.地域や町内会の行事に参加する。(敬老会、盆踊り、ゴミ拾いなどできる時に) 3.利用者と近所散歩や買い物の機会を増やしていく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。